

## 授業概要

本授業は、教育学部特別支援教育専攻の1年次学生を主たる対象として、特別支援教育講座の教員4名（佐久間、池本、梅永、岡澤）で開講しているものです。

本授業では、障がい者が描かれている映画、文学等の作品を鑑賞し、参加者全員がさまざまな角度から意見を交換し合うことにより、障がいや障がい者問題に関する感性と知識を深めるきっかけとします。

また、レポート作成、発表、討論の一連の活動を経験することにより、大学における学習方法と学習態度の基礎を身につけることも目的としています。



## 映画・文学作品に見られる障がい者像

### 新入生セミナー【教育学部】



【池本喜代正教授】

#### 教員から

本授業は、2週で1セットの構成になっています。最初の週に、障がい児者が描かれている映画を受講生全員で鑑賞し、次の週にその映画に関する討論を行います。映画1作品につき、2~3名の受講生がレポーターとなり、担当する映画の鑑賞後、受講生の感想なども参考にしてさまざまな文献にあたり、次の週までに、その映画に描かれている障がい者像、障がい者観などに関してレポートを作成するとともに、全体での討論のテーマを用意します。討論では、レポーターが最初にレポートに従って発表した後、討論のテーマを、設定理由やテーマに対するグループとしての見解などとともに、受講生に提示します。討論の進行もレポーターが責任を持って行います。鑑賞する映画は、「野生の少年」「奇跡の人」「レインマン」「8日目」「学校」「マイ・レフトフット」などです。

大学においては、受け身的に知識を与えられるのを待つのではなく、主体的に自ら問題意識を持って問いを発し、それに対する答えを自ら見出していくことが大切です。問うて学び続けることです。したがって、レポートの発表も、単に調べてきたことを報告して終わるのではなく、さまざまな見解について批判的に吟味し、グループで見出した答えを自分のことばで表現することが求められます。本授業を通して、受講生がこうした大学における学びのあり方について実感してくれることを期待しています。



教育学部特別支援教育講座 准教授 岡澤 慎一

#### 学生から

この授業では、障がいをテーマにした映画を鑑賞した翌週、全員で討論を行います。作品ごとにグループ単位で決まっています。作品のあらすじや、主人公に見られる障がいの特徴をまとめ、全員で行う討論テーマの提起を含めたレポートを作成しました。討論会当日にはレポートのテーマを基に、教授の意見も混ぜ各々の意見を交わします。真剣な「障がい観」が見えるので、とても有意義で毎回考えが洗練されていく感じがします。

特別支援教育専攻1年 石塚 麻夏

私は第1回の「野生の少年」という作品の担当グループでした。全く教育を受けず野生で育った少年が主人公で、彼は教育によって社会参加ができるのかということが主題の作品です。グループの4人で集まって討論のテーマを練りました。その際、「このテーマでどんな意見が出るか」「話が膨らむか」「意義のある討論になるか」の点に注意しました。しかし実際の討論では思いもよらない意見が飛び出して、予想以上に深みのある討論になります。

特別支援教育専攻1年 薄井 英里

